

重度の障害があっても「働きたい」人を支援する自治体制度の活用事例
千葉市独自の「重度障害者等就労支援特別事業」により、
進行性の難病を発症した経営者が重度訪問介護を就労で利用

重度障害のある方への訪問介護事業、重度訪問介護を国内最大規模(約100)で運営する障害福祉業界大手のユーススタイルラボラトリー株式会社の運営する「ユーススタイルケア 千葉 重度訪問介護事業所」で、難病を発症した会社経営者の方の就労支援を、千葉市独自の「重度障害者等就労支援特別事業」を活用して実現しました。重度の障害があっても働きたいと願う人たちの就労を実現できるこの自治体制度について、多くの方に知っていただきたく、本事例についてご取材検討をお願い申し上げます。なお、当社ではこれまでに、名古屋市、四日市市で活用実績がありましたが、なかなか活用までの壁が高いと感じてきました。今回は当社において首都圏初の活用ケースとなりましたので、お知らせします。

「重度訪問介護」サービスとは

- ✓ 重い障害や難病のある方が24時間365日安心して在宅で生活するために利用できる障害福祉サービス。
- ✓ 国の制度(告示523号)により、原則として通勤や就労といった「経済活動」には利用できない。

「重度障害者等就労支援特別事業」とは

- ✓ 対象者が、通勤又は就労している時間において必要な重度訪問介護・同行援護・行動援護に相当する支援を提供。
- ✓ 重度の障害がある方が就労する場合に、通勤の支援や職場での身体介護などの支援を実施し、障害者の社会参加を促進

国の障害者の就労支援対策において、雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業は地域生活支援促進事業に位置付けられている。
国は、重度障害者等の通勤や職場等における支援に意欲的に取り組もうとする企業や自治体を支援するため、雇用施策と福祉施策が連携した事業を実施している。企業が障害者雇用納付金制度に基づく助成金を活用しても支障が残る場合や、重度障害者等が自営業者等として働く場合で、市区町村が必要と認めた場合に自営等や企業で働く重度障害者等に対して市区町村から重度訪問介護等事業者を通じ、通勤や職場等における支援を実施している。(厚生労働省「障害者の就労支援対策」より)

難病を発症した会社経営者 Aさんの事例

- 2016年、筋肉が徐々に衰えていく進行性の難病「封入体筋炎」と診断。
- 食事やトイレ、立ち上がり、車椅子への移乗といった日常の動作すべてに介助が必要になる。
- 終業後、自宅で重度訪問介護サービスを利用。就業中は利用できないため、従業員に介助を依頼。
- Aさん「社員には申し訳なさや、特にトイレの介助などは、お互いに大きな精神的負担があった。トイレの回数を減らすために水分や食事を控えるなど健康面にも悪影響があった」
- 千葉市の「重度障害者等就労支援特別事業」を見つけ、行政に交渉。
- 4ヶ月後、「ユーススタイルケア千葉重度訪問介護事業所」が提供する重度訪問介護サービスを就労利用で開始。平日8:00～18:30まで介護を受けながら勤務している。

ユーススタイルラボラトリー株式会社

「すべての必要な人に、必要なケアを届ける。」をミッションに、在宅ケア・障害福祉サービスを全国に提供する。全国最大規模の運営となる重度訪問介護では365日24時間医療的ケアを提供。医療的ケア人材育成のための福祉資格スクール「ユーススタイルカレッジ」も各重度訪問介護事業所に併設。

<本件に関する報道関係連絡先>

ユーススタイルラボラトリー株式会社 広報担当:岡水 TEL:070-1569-0873 mail:pr@eustylelab.co.jp